

開講年度・学期	2017 年度・通年	授業形態	演習
科目名	専門演習（国際政治）	科目ナンバー	JASEM3303
英語表記	Seminar on International Politics	担当教員	永井 史男
単位数	4		
<b>科目の主題</b>			
国際政治経済論			
<b>授業の到達目標</b>			
<p>前期は国際政治経済論やグローバリゼーションについて書かれた著作を取り上げる。最初に国際政治経済論に関心をもってもらうため、ルポルタージュ的な本を取り上げ、国際政治経済のイメージをもってもらう。続いて、体系的な理論書をいくつか取り上げる。後期は、各自の関心に従った研究テーマの発表報告を課す一方、ゼミ論執筆に必要な社会科学方法論や各自のテーマに応じた理論書や論文を取り上げる。</p>			
<b>授業内容・授業計画</b>			
<p>演習では報告者が本や論文の要旨をまとめコメントを記したレジュメを用意し、全員で討議する。本演習では、後期の研究報告をもとに、「ゼミ論」を提出してもらう。この「ゼミ論」提出がゼミ単位取得の必須条件である。ゼミ論執筆はゼミの中心的活動で、夏休み中のゼミ論テーマに関する課題図書を読破を始め、2回のゼミ論報告も予定に組み込まれている。受講者数にもよるが、前期にも何度か5時間目に補講が入ることがあるので、そのつもりでいてほしい。本ゼミはまた、一橋大学社会学部の中北浩爾ゼミ（日本政治史）と立命館大学法学部の徳久恭子ゼミ（政治学）とゼミ交流（三商大ゼミ）を続けている。平成 28 年度は「外国人参政権の是非」がテーマで、それへの参加も評価対象の一部である。また 9 月には国内合宿を行う予定である（2015 年度は金沢で合宿を行い、理論書を 1 冊取り上げた。2016 年度は韓国に赴き、ソウル市立大学政経学部と交流を行った）。後期は各自が選ぶゼミ論に関するテーマや三商ゼミで取り上げるテーマに応じて、本や論文を選択し、前期同様に全員で検討する。</p>			
<b>事前・事後学習の内容</b>			
<p>各回とも受講生に報告の担当が回るほか、共通のテキストを読み進めるので、事前学習は必須である。ゼミ受講後に新たな文献を読む必要に迫られるのが通常なので、事後学習も必然的に行うことになる。</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>出席点、ゼミ論の出来栄え、三商ゼミへの貢献、平常点（授業態度、発言など）で総合的に評価する。</p>			
<b>受講生へのコメント</b>			
<p>活動が多岐にわたり、たくさんの本や論文の読破が前提となるので、相応の覚悟をもってゼミに臨んでほしい。目標は、「指名されなくても意見が言い合える」ゼミ、「よく学び、よく遊ぶ」ゼミである。</p>			

## 教材

前期は下記に挙げる本を順番に取り上げる。最初の3冊はやや古く絶版になっているので、図書館で借りるか古本を購入するなどしてほしい（どうしても入手困難な場合は、コピー配布する）。ゼミ初回は1冊目の本を持参すること。

船橋洋一『サミットクラシー』朝日新聞社、1991年。

田所昌幸『「アメリカ」を超えたドル』中央公論新社、2001年。

ロバート・ギルピン、古城佳子訳『グローバル資本主義』東洋経済新報社、2001年。

飯田敬輔『国際政治経済』（シリーズ国際関係論）東京大学出版会、2007年。

野林健・長尾悟編『国際政治経済を学ぶ 多極化と新しい国際秩序』ミネルヴァ書房、2011年。

## その他

OB/OGを含めたコンパや交流もしばしば開いている。OB/OGには民間企業に務めている社会人はじめ、自治体職員、国家公務員（外務省を含む）、弁護士、研究者、大学院生（国際関係論）など、多彩な人たちが集まる。2016年度は三商ゼミが一橋大学で開催されたのに合わせて、都内六本木の国際文化会館でOB/OG会を開催した。

## 履修可能最低年次

3年次生以上